

クロモジ実生苗生産のための効率的な種子採取方法

福島県林業研究センター 森林環境部

部門名 林業—緑化—増殖・繁殖

担当者 大高千怜

I 新技術の解説

1 要旨

本県では、アロマオイルとして利用される精油の原材料となるクロモジの採取が南会津地域を中心として行われているが、精油の抽出率が低いため、大量の自生クロモジが必要であり、自生クロモジ資源の枯渇が懸念されている。そのため、今後は実生苗により安定的なクロモジ生産を行う必要がある。実生苗生産のための効率的な種子採取方法の検討をするため、自生クロモジにおける種子生産と樹高サイズの関係性を調査するとともに、枝上の種子の回収方法を検討した。その結果、6月までの枝への袋かけにより効率的に種子を回収できることを確認した。

- (1) 郡山市に自生するクロモジ 111 本（樹高 6～300cm）を対象に4月に着花確認調査、6月に種子量調査を実施した。43本に着花が確認され、うち約1/3の14本に結実が確認された。また、結実が確認された個体の平均樹高は約222cmであった（図-1）。
- (2) 種子が多く確認された3個体について、6月に枝の半分程度に袋かけ（市販の水切りネットを使用、図-2）を行い、6月から8月までに月1回、種子量調査を行った。袋かけありでは、6月の種子数の100%が採取できた（うち袋中落下種子約30%）のに対し、袋かけなしでは採取できたのは約10%であり、約90%が消失した（表-1）。

2 期待される効果

- (1) 樹高約2m程度の自生クロモジを母樹として残すことで、種子採取に使用できる可能性がある。
- (2) クロモジの種子は自然落下や鳥の補食により7～8月に大半が消失するが、6月までに袋かけを実施することで効率的な種子採取が可能となる。

3 適用範囲

- (1) 県内クロモジ精油生産者、苗木生産者

4 普及上の留意点

- (1) 実生苗生産のため、採取した種子（図-3）は果肉を除去し、すぐに露地にとりまきすることで翌春に発芽が見込まれる（参考文献（1））。

II 具体的データ等

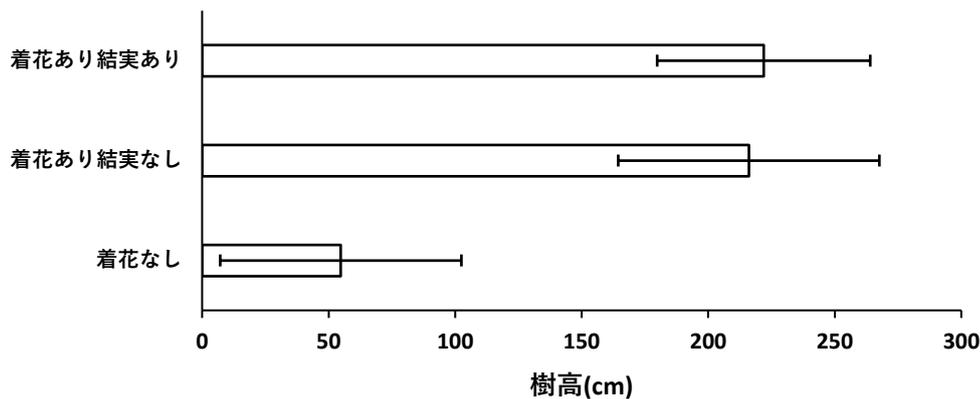


図-1 着花・結実別の平均樹高



図-2 袋かけの状況



図-3 採取したクロモジ種子

表-1 袋かけによる種子数調査 (カッコ内は袋中に落下していた種子数)

No.	袋かけ	袋数	枝数	6月14日 種子数	7月12日 種子数	8月18日 種子数	回収率 (%)
1	あり	24	5	69	69 (5)	69 (29)	100.0
	なし		8	75	62	10	13.3
2	あり	15	4	37	37 (4)	37 (7)	100.0
	なし		5	28	24	3	10.7
3	あり	12	5	38	38 (1)	38 (10)	100.0
	なし		5	37	32	1	2.7

III その他

1 執筆者

大高千怜

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元～令和5年度
- (2) 研究課題名 広葉樹の増殖に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 関西地区林業試験研究機関連絡協議会育苗部会編 (1980) 樹木のふやし方一タネ・ホトリから苗木まで一, 農林出版株式会社, 90-91